

ちっご祭「はねてん大賞」の八女高校ダンス部

一般質問

ズバリ 市政を問う

本定例会での一般質問は、9月10日から11日までの2日間で行われ、9人の議員が質問しました。その質問と答弁の要旨をお知らせします。掲載は質問順としています。

不登校解消に支援の強化を

弥吉 治一郎 議員

答 一人ひとりの児童、生徒に応じた支援を行いたい

問 平成25年度の不登校は小学生で9人、中学生で47人となっているが対策は十分なのか。

できない。個々に十分対応できるような人員の配置を検討し、予算措置をすべきではないか。

市長 不登校は市としても大きな課題と認識している。25年度は不登校者数が増加した。昨年度までは県事業でスクールソーシャルワーカーを配置していたが、今年度より市事業で行っている。今後は一人ひとりの児童、生徒に応じた支援を行い不登校の解消に努め、対応結果を検証しながらより効果を上げたい。

教育長 ソーシャルワーカーも配置したが十分かと言われると、やはりマップは必要だ。今後、検証しながら予算要求をやっていく。

な支援員の配置により不登校が解消し、高校入学など成果も上がっている。さらに一人ひとりに対応できる措置を要求する。

問 不登校は、あとあと子どもたちの長い人生の中で問題が出てくると思慮される。市では、新たな支援員の配置により不登校が解消し、高校入学など成果も上がっている。さらに一人ひとりに対応できる措置を要求する。

個々に応じた支援には更なる予算措置を

問 中学校だけで47人の不登校生徒がいる。現在の体制で一人ひとりの児童生徒に応じた支援はで

きません。個々に十分対応できるような人員の配置を検討し、予算措置をすべきではないか。



教育支援教室スマイル